

## 平成 24 年仕事始め年頭の挨拶（教職員向け）

明けましておめでとうございます

2012 年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

「明けましておめでとうございます」という言葉を使うことがはばかれるほど、去年は日本にとって過酷な年でした。

いまだ多くの方々が仮設住宅でお正月を迎えていること、ふるさとを離れて過ごしている方々が多いと思うと、本当に胸が痛みます。

科学技術のあり方や研究のあり方が問われる日々でした。大学も研究者一人ひとりも、改めて襟をただし、謙虚になる必要性を感じました。

同時に、非常に困難ではあるけれど、世界や日本の英知を集めれば、復興に向けての諸問題を解決できるのではないかと感じています。

さて、年頭ですので、静岡大学の少し明るい話をしましょう。去年は、大学会館をリニューアルし、教育学部の学生が壁面をデザインしました。明るく伸びやかな壁になりました。浜松の図書館もリニューアルしました。また、「たけのこ」をオープンし、浜松では学童保育をはじめました。男女共同参画も着々と進んでいます。

東海地区国立大学体育大会において男女アベック優勝をしました。学生の東西交流を藤枝で行いました。愛知教育大学との共同大学院が認可されました。研究では、卓越研究者を発表しました。教育学部附属島田中学校の P T A が優良 P T A として文部科学大臣から表彰を受けました。また、皆さまのご協力で節電も定着し、平均 8 % の節電をしています。

ところで、平成 24 年度予算案には、学内の教育研究組織の大規模な再編成、大学間のネットワーク「大学群」をつくることや大学間の連携協力促進のための予算が新たに計上されています。

教育の質保証と個性・特色の明確化については、教員審査を伴う学部・研究科の改組などに対して重点的に支援するとあります。静岡大学でも工学部改組を進めていますが、従来の学部・学科を越えた改革も検討する必要があります。

運営費交付金は復興特別会計の計上分を含め、対前年度 0.9 % 減で約 105 億円削減されます。

大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。経済や雇用も厳しさを増していますが、将来の日本を担う人材を育成する大学の役割は、従来にも増して重要となっています。このことを、一人ひとりの教職員が認識し、学外にも広く伝えていきましょう。学内外の英知を集め、静岡大学の強みを生かし、難局を乗り越えていきましょう。

平成 24 年 1 月 4 日  
国立大学法人静岡大学長  
伊東 幸宏